

学 年

第5学年（高等学校2年）

テーマ

言語の違いを越えて世界を学ぶ

■学年を通しての学習の目標・ねらい

生徒は卒業後も、英語を使って討論したり、講義を聴いたり、インターネットや図書館で検索した資料を利用して、プレゼンテーションするために原稿を書いたり、学术论文を書くことを目的に、英語を生涯学習し続けるであろう。そのため高校2年の段階において、英語を使って実際に世界の人々とコミュニケーションをとり、自分の価値観を揺さぶるような異文化との交流体験をもたせ、これまで学んだことを活かし、さらに生徒が言語の違いを越えて何を学ぶかを考えさせることをねらいとする。

第1段階として、自分が発信する中身を持つことが必要である。これまで「総合的な学習」の時間にまとめてきたプロジェクトを英語で発信したり、自分たちの学校生活のような身近なことを英語で紹介することで自分から交流を始めるきっかけを作ることが重要である。発信する中身を持つことができれば、交流の形態は様々であっても、交流先を見つけることはさほど難しくはないはずである。具体的には地域に在住の異文化を背景として育った人や留学生を招待することや、インターネットでの交流を想定する。

次の段階では、自分たちの生活が、交流先の文化（以下 Target culture）とどのように関わりがあるかを考えさせることを重視した活動を展開する。探求活動・表現活動において、ステレオタイプの理解や発信にならないように、思考が深まる過程を重視する必要がある。

学習の最終段階においては、自分の国と交流先の国を対象とした単なる二国（二つの文化）間の問題に意識が留まることなく、今日の地球的課題〔環境・人口・食料・貿易・地域紛争等の問題〕へも交流の内容が展開していくことを想定すべきである。そのような問題の原因と、その解決へお互いがどのように貢献できるかを意識できるように交流を援助していく必要がある。

■学年を通しての評価の方法

- (1). 教師による活動の評価（観察・提出物の評価等）
- (2). 生徒による自己評価（活動の記録・作品・レポート）
- (3). 作品発表時における相互評価

■学年を通しての評価の観点

(1). 探求活動に意欲的・積極的に取り組むことができたか

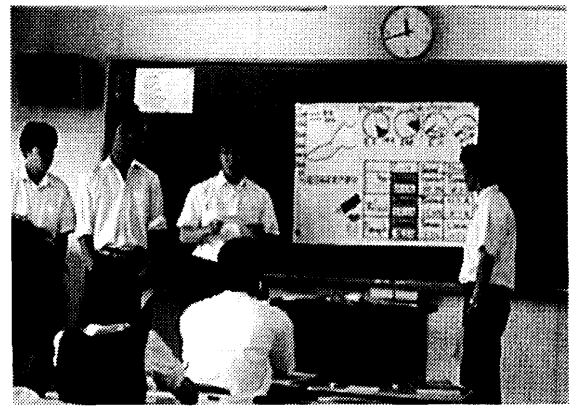
- ①課題に対して、様々な知識を総合的に利用し、問題を解決しようとしているか。
- ②グループ活動においては、構成員間の興味・関心の違いをお互いに理解し、認め合い、活動を高めることができるか。

(2). 文化の多様性への理解が深まったか

- ①自分の経験や知識と接点を見つけているか。
- ②ステレオタイプの理解でとどまっていないか。
- ③地球的課題の解決を意識しているか。

(3). わかりやすい表現活動を展開する技能が身に付いたか

- ①調べたことを，聴き手の理解を高めるように，発表原稿に構成できたか。
- ②絵図の利用は理解を助けるために効果的か。
- ③リハーサルを通じて体験したことを，よりよい発表活動に結びつけられるか。



[プレゼンテーションの様子]